

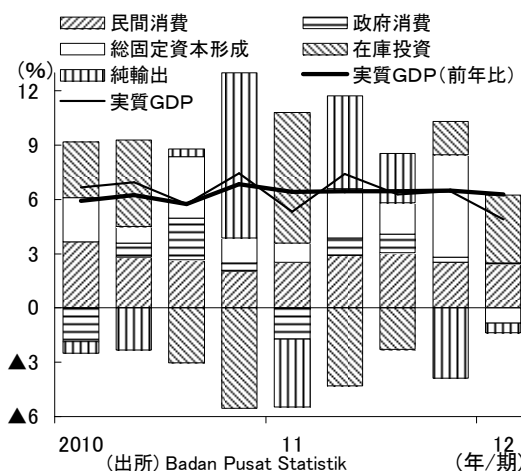


インドネシア経済が減速

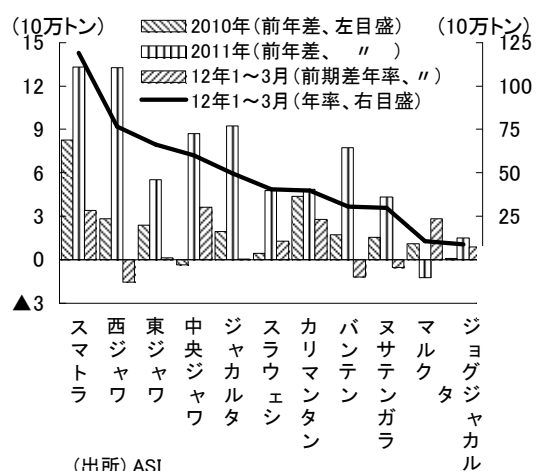
～ 4～6月期以降、再加速へ ～

- (1) インドネシア経済は本年1～3月期前年比6.3%成長（図表1）。2010年初来、6%前後の成長持続。寄与度は民間消費2.8%、総固定資本形成2.3%と内需の2本柱が堅調。一見すると、着実な成長軌道。しかし季節調整を施してみると、成長鈍化の兆し。10年初来の前期比年率7%成長から本年1～3月期4.9%と09年10～12月期以来の5%割れ。寄与度をみると民間消費に大きな変化は見られないものの、総固定資本形成が前期の5.7%から▲0.8%と急減速。主因は外資の設備投資。寄与度は前期の3.0%から▲0.9%へ。外資要因を除けば若干ながらプラス。とりわけ建設投資は寄与度0.8%と従来同様1%前後の底堅い増勢持続。
- (2) エリア別建設投資の観点からセメント消費をみると、ジャワ島に加え、近年スマトラ島が力強い盛り上がりへ（図表2）。10年から本年1～3月まで最大の牽引役。さらにスラウェシ島やカリマンタン島でも増加。セメント消費全体で昨年央以降、増勢加速。昨年末から一段と拍車。主因は昨年5月末に同国政府が公表した長期経済計画、いわゆる『経済開発加速化・拡大マスタープラン』。2025年、1人当たり国民所得15千ドル水準の高所得国入りを目指し強力なインフラ整備計画を策定。ポイントはジャワ島とスマトラ島を中心に交通インフラ、次いでエネルギー・インフラを重点整備（図表3）。スラウェシ島やカリマンタン島を含め、エリア内およびエリア間の幹線整備が主眼。
- (3) 公共事業の始動に伴い景気は一段と強含み。企業・消費者マインドも積極化。住宅需要が増加するなか不動産価格が上昇。主要都市の住宅価格はスマトラ島やジャワ島を中心に昨年初来、一段と上昇傾向加速（図表4）。インフラ整備を見越して、外資の資本流入は引き続きハイペース。本年1～3月の減速は一時的。同国経済は本年も投資主導で実質6～7%の高成長持続の公算大。

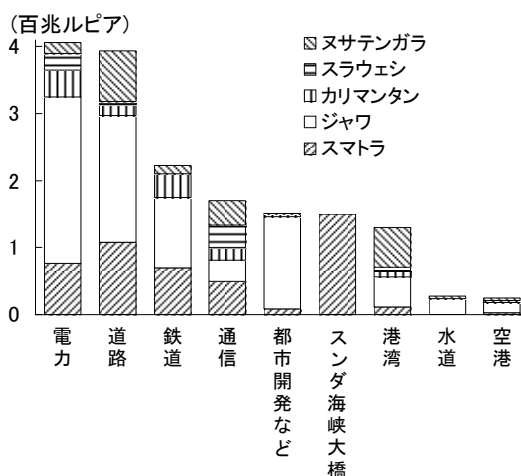
（図表1）インドネシアの実質成長率（季調済年率）



（図表2）エリア別セメント消費量（季調済）



（図表3）経済開発加速化・拡大マスタープラン



（図表4）都市圏別住宅価格

